

ハス科 ハス属

ハス (蓮)

Nelumbo nucifera Gaertn.

自生環境

池や沼、湖など

原産地

熱帯アジア

予想される被害



勢いよく繁茂するので、天然の湖や沼などに、新たに植えるのは、あまりおススメできません。大量の堆積物で水質が悪化したり、水の流れが滞るなどの影響が懸念されます。

市内の分布状況

市内には自生しません。大賀ハスは、関宿総合公園などに植えられています。昔からある沼などには、かつての蓮田の名残と思われるものが見られることもあります。

関宿総合公園
夕日が池 (植栽)

特徴

- ☆ そこそこの水深がある池や沼に生える多年草です。主な花期は6~7月で、花は直径20cm以上、午前中を中心に開きます。
- ☆ 水底の泥の中に太い地下茎を長く伸ばしながら、どんどん増えていきます。この地下茎はレンコン(蓮根)と呼ばれます。ただし観賞用の品種はあまり美味しくないといえます。
- ☆ 葉の表面はよく水をはじきます。この構造を応用したものが防水加工です。小さな葉や、生育初期の葉は水面に浮かびますが、ふつうは水面から大きく突き出るように葉をのびします。
- ☆ 果托は穴がだらけで、1つの穴に1つずつ、タネが入っています。この果托がまるで蜂の巣のように見えることから、古くはハスのことを「はちす」と呼んでいました。

大賀ハス

1951年、千葉の検見川で、大賀一郎博士のチームが、2000年以上前のもので推定されるハスのタネを発掘しました。そのタネから育った株は1952年7月18日に初開花。この花は直径25cm、淡紅色、花弁数23枚との記録が残っています。このハスは「検見川の大賀蓮」と呼ばれ、株分けしたものが各地に植えられ、千葉県の天然記念物として、また千葉市の花として広く親しまれています。



花は午前中を中心に咲く。1つの花の寿命は4日ほど。花には香りがある。



タネはとても硬く、寿命が長い。

1つの穴にタネは1粒。

果托がまるでハチの巣そっくり!



葉は水をよくはじく。

葉や花は水面から大きく突き出る

小さめの葉は水面に浮かぶことも。